



本藍染の布や、藍をテーマにイメージネーションされた様々な、  
かたち・美しいテキスタイルの衣の秋冬コレクションをご紹介します。  
新しい命が吹きこまれた、芸術作品を是非ご覧いただければと存じます。



2020 秋冬コレクション展  
循環する命



2020 11月13日(金) ~ 11月28日(土)

11:00 ~ 17:00 月・火定休

11/23(月・祝)は営業します。11/24(火)、11/25(水)は振替にてお休みです。

## 手のひらの旅 —循環する命—

「藍は染まるのではなく、宿るのだ。」



自然が生み出す魔法から生まれる「発酵」その力がなければ、藍は布に留まることができず流れ去ってしまう。

命のケラが姿を変えて糸の間に宿っている。そんな藍染を素肌に着ると、植物の波動が心に小さなさざ波を起こす。その力は、受け取る人の心を守り、清め、鎮める。

その実感を抜きに藍染を語ることは虚しい。心の側面から語るなら、藍染とは視覚上の色というよりも、自然の命をまとうことなのだ。

サステイナブル（持続可能）なものは、伝統的な手仕事の中にこそある。藍染やこぎん刺しのように何百年も続いてきたものは、

歴史が実証する本当の意味でのサステイナブルだ。毎年繰り返し畑で収穫できる自然の恵み、何世代も伝承されてきた知恵と技術、

そして資源の再利用と自然への循環。

21世紀、私たちの意識は変わりつつある。生産、消費、廃棄のシステムを見直し、無駄を出さず、再利用し、自然と調和する社会のあり方を人類はようやく探し始めた。

それはまだ始まったばかりの挑戦である。

しかし同時に大切なヒントはすぐそばにある。



デザイナー  
堀畑裕之  
関口真希子

堀畑氏は大学で哲学を、関口氏は法律を学んだ後、文化服装学院で出会う。卒業後、堀畑氏はコム・デ・ギャルソン、関口氏は、ヨウジヤマモトにてパタンナーとしてパリコレクションに携わる。のち渡英、ロンドンコレクションの仕事に携わる。帰国後、matohu を設立。

パターンを大切にする「服作り」と、綿密に組み立てられた「言葉」を大切にし、オリジナルテキスタイルを用いた芯のぶれないクリエイションを続けている。

